

西吾妻山（山スキー） / 天元台スキー場～西吾妻山～若女平～白布温泉

2016.03.04

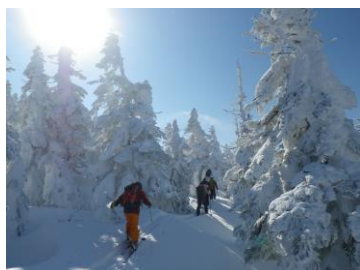
メンバー：谷嶋、大曾根、菊地(厚)、滋田、小濱(記録)

天気：晴れのち曇り

記録：天元台湯元駅(8:00)→リフト終点(9:30)→西吾妻山(11:00)→若女平(13:30)→細尾根(14:00)→白布温泉(15:00)

今シーズンは山スキーを積極的にやりたい。やっぱり新しく始めたことはワクワクします。とはいえ滑りも下手だし体力も落ちてきた。しかも翌日みんなは会山行で、自分は親戚の家まで長旅だからお手軽な場所がいい。

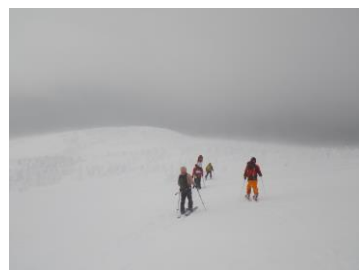
相談の結果、天元台スキー場から西吾妻山ということになった。スキー場から西大巔ピストンのつもりだった雰囲気もあるメンバーを半ば強引に若女平ツアーコースに誘って、いざ天元台。



晴天の樹林帯



樹氷原を歩く



稜線に出るとガスった



西吾妻山にて



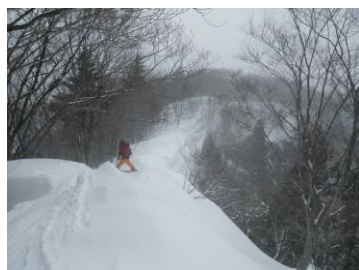
大曾根さんと西大巔



絵になる矢嶋さん



パウダーに戯れる滋田さん



細尾根を慎重に渡る



橋を渡る菊地さん

前日、米沢の降雪は僅かだったようだがスキー場の近くはさすがの降雪量だ。ロープウェイでスキー場に上がったが、除雪作業の為にリフトは止まっていた。遅れて動き出したリフトに乗るが2本目で足止めを食らう。待っていても寒いのでゲレンデを登り始めたところでリフトが動き出してしまった。む・・・悔しい。悔しいのでシールを付けたままゲレンデを滑ってやる。2回ほど皆で大人気なくシュプールを刻むと、スノーシューの滋田さんが羨ましげに見ていた(笑)

リフトトップから樹林帯に突入。この日に山に入る人間は思ったより少なく、トレースは無かった。西吾妻山と中大巔のコルを目指して山腹を巻き上る。足元にはノートラックのパウダースノー、顔を上げれば青空と樹氷で最高の気分だ。

コルに着くあたりからガスが出始める。午前中は大丈夫だと思っていたが、予想より崩れるのが早そう。雪煙で足元が良く見えず、何度かうねりに足を取られる。北斜面は無風だったが稜線は結構風があるのね。はぐれないように気をつけながら西吾妻山へ登る。頂上からは磐梯山が良く見えた。天狗岩は・・・あれか。遠目にもしょっぱい。お隣の西大巔を見るとテンションが上がる。だって西大巔の東斜面は一面のオープンバーン！今度は是非あそこを滑ってみたい！

西吾妻山から小屋経由で若女平に降りる時、良さそうな斜面に誘われて南西側に降りてしまった。山腹を巻けるかと思ったが、密林&ボコボコ雪面に苦戦する。特にボードの菊地さん、滋田さんが辛そう。ホントごめんなさい<m()m>素直に北西側に落せば良かったね。スキーなら西吾妻小山ではシールを付けたままの方が良いかもしれません。

若女平へは夏道の西側の谷に滑りこむ。少しの密林を漕いだら樹林帯の快適な滑降になった。良い斜度でしかも軽～いパウダー。気持ちよく板が走り、メンバーから声が漏れる。しかし、みんな上手い。ふわふわと谷筋へ舞い降りていく。自分も何とかみんなを追いかける。「上手くなりたい！」

1350 付近になると沢床にギャップが出始めた。沢床に入り込みすぎないように注意しながら滑り、1300 くらいから右の尾根に向かってトラバースを始める。ここもボーダーには辛そう。若女平で偶然にも小山山岳会と会った。グランデコから来たそうで、今日は白布温泉で宴会。明日は天元台から入って二十日平に降りるそう。温泉宿泊りのスキー合宿なんて、とても魅力的じゃないかあ。いずれ計画したいものだ。

若女平から少し急な斜面を下り、細尾根に入る。記録を見ると右側が切れ落ちていて危険との事だったが、左側だってなかなかの斜度だ。数年前に右側の崖へ転落したスキーの登山者が亡くなっていることを考えると身が締まる。慎重にこなして先へ進む。

細尾根を進み、降りられそうな斜面から藤右エ門沢の左岸側に降りる。結構な傾斜だったが、矢嶋さん、菊地さん、滋田さんは巧みに滑り降りてきた。本当に皆上手だ。羨ましい。緩んで腐り始めた雪の植林の中を適当に進み、藤右エ門沢にかかる橋を渡ってゴールした。

三月に入ってもパウダーを堪能できたことで、今回のツアーの印象はまずまず良かった。西吾妻から東に見渡した吾妻連峰はまだ奥深い。中吾妻の向こう側にも行ってみたい。栃木からは少し遠いが、山スキーで広く長く駆け回ってみたい山域だ。(小濱)